

「研究支援」報告

2014年度

小川浩「少子化下での医療供給体制」

報告は本号研究ノート

三浦慎太郎「二段階モデルによる戦略的コミュニケーションゲームの統合と検討」

報告は2015年度を参照

大滝英生「ナイト流の危険・不確実性と動学的確率的マクロ経済モデル」

報告は本号英文論説

2015年度

小川浩「脳血管疾患の救急医療体制」

報告は本号研究ノート

三浦慎太郎「二段階モデルによる戦略的コミュニケーションゲームの統合と検討」

戦略的コミュニケーションゲームとは、非対称情報下におけるプレイヤー間の情報のやり取りを巡る駆け引きを分析する枠組みである。代表的なモデルとして、（費用の伴う）シグナリングゲーム、チープトークゲーム、説得ゲームの三種類を挙げることが出来る。本研究課題では、共通する部分を多数持ちながらも異なるパラダイムとして発展してきたこれらのモデルを一つの枠組みで統合・再検討することを目的としている。

本年度は統合のための予備的研究として、個別モデルの分析と応用に注力した。具体的な成

果は以下の通りである。

- ・ “Misprediction and Language Inflation in Communication” (Toulouse School of Economics の山下拓朗氏との共著)
- ・ “Equilibrium Selection in Persuasion Games with Binary Actions”
- ・ “Manipulated News Model : Electoral Competition and Mass Media”

またこれらの論文は、Contract Theory Workshop, Summer Workshop on Economic Theory, EEA-Mannheim の学会、並びに Higher School of Economics, 大東文化大学のセミナーで口頭報告を行った。

出雲雅志「リカードウを中心とした古典派経済学の多様性と現代性の総合的研究」

2015年度の研究調査の対象は、主として日本の経済思想の歴史と Jean-Baptiste Say の所蔵本、の2つの領域にわたる。ここでは後者についてふれたい。

刊行中の全10巻『Jean-Baptiste Say 全集』編集者からの要請をうけ J.-B.Say の旧蔵書とそれへの書き込みを調査した。「セー法則」で有名なフランスの経済学者 Say の旧蔵書が日本にあることはほとんど知られていない。これまで確認されていたのは一橋大学の2冊のみである。Say の孫 Hippolyte Comte が受け継いだ Say 旧蔵書には「Bibliothèque Hip. Comte」印が押されている。ところが、神奈川大学図書館山口文庫（一橋大学と神奈川大学で教えた山口茂（1893-1974）が1966年に寄贈した旧蔵書）にはこの印のある本が18タイトル38冊が所蔵され（一橋大学の2冊も山口の寄贈）、そのうち数冊には Say 自身の書き込みや挟み込まれた詳細なメモが多数あった。

これらの貴重書は、山口茂が1925年から1927年にかけて英・独・仏・米に留学したおりに手に入れたものであろうか。フランスから日本にわたった J.-B.Say 旧蔵書の200年におよぶ不思議な旅の道りはまだわかっていない。